

平成22年度施策評価表

(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 4 月 12 日

施策No.	10	施策名	消防・救急体制の整備
主管課名	消防本部 総務課	主管課長名	川岸 芳雄
関係課名	消防本部 予防課、消防署		

施策の目的 【対象】	対象指標名	単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	目標年度 (年度)
			①市民	①市の人口	人	46,459	46,036	45,562
②財産								

施策の目的 【意図】	成果指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	23年度目標	目標値
			①火災などから守られる。 ・救命率が向上する。 (成果指標名の数値は、すべて1月～12月までのデータとなっている。) (心肺停止者の蘇生率は平成17年からデータの基準値が変更され比較が難しい。)	①出火率	%	2.4	3.9	1.7
	②火災1件当たり焼損床面積(建物火災)	m ²	57.4	77.2	102.5	40.0	40.0	40.0
	③火災による死傷者数(上段:死者数、下段:負傷者数)	人	1	2	1	0	0	0
		人	1	4	2	0	0	0
	④救急車現場到着時間(平均)	分	5.7	6.1	6.0	5.5	5.5	5.5
	⑤現場到着時の心肺停止者の蘇生率	%	21.0	17.9	33.3	35.0	35.0	35.0

成果指標設定の考え方	<p>①出火率(人口1万人当たりの火災件数)の年別推移を見ることで、どれだけ火災が発生しているかがわかり、出火率が少ないほど人命、財産が守られることになるので、これを成果指標とした。</p> <p>②火災1件当たりの焼損床面積を見ることで、財産の損害の程度がわかるので、これを成果指標とした。</p> <p>③火災による死傷者数を見ることで、人的被害の程度がわかるので、これを成果指標とした。</p> <p>④救急車現場到着(以下「現着」)時間(平均)を見ることで、短ければ短いほど、救命率が高まるので、これを成果指標とした。</p> <p>⑤現着時の心肺停止者の蘇生率を見ることで、救急救命で助かった度合いがわかるので、これを成果指標とした。</p>
------------	--

成果指標の把握方法(算定式等)	<p>①②③④消防本部の資料(「魚津市火災救急統計」及び「消防白書」(総務省消防庁))により把握。</p> <p>⑤消防本部の資料(救急活動報告書)により把握。</p>
-----------------	--

施策の成果向上に向けての役割分担	市民	・「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助、共助の連帯意識の下に、個人個人が防火意識の高揚を図り安全・安心な暮らしを自ら構築する。
	市	・施設、人員の充実に努め、消防、救急体制の整備を行う。
	その他	・自主防災組織と消防本部、消防団と連携を図っていく。

